

対応方針	発言要旨
①分析・報告 立地・避難所の 考え方（資料3）	<ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>一次評価におけるハード評価では、交通の利便性等土地の立地に関する評価も重要ではないか。</u>売却や譲渡の際、重要な要素になってくる。 ➤ <u>安全性の観点から避難所指定についてはどのように考えているか。</u>
②委員会で審議 評価の視点・施設 分類の見直し （資料4）	<ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>二次評価の視点において評価とシミュレーションが混ざっているのでは。</u>客観的な評価とシミュレーションの世界での評価を分けて記載してはどうか。 ➤ <u>施設分類表には、市の重要な施設として斎場、駐車場、ごみ処理施設も記載すべき。</u> ➤ <u>施設使用料が見込める場合は、市の財政的な観点から評価できるのではないか。</u>2次評価の<u>評価項目</u>として追加してはどうか。
③評価・指摘	<ul style="list-style-type: none"> ➤ <u>施設が本来実施すべき施策をしっかりできているか、施設評価を行う上で考慮すべき。</u><u>政策に対するフィードバックを継続することが重要。</u> ➤ 計画を実行する際は他の計画や地域の実情を考慮すべき。 ➤ 二次評価の結果として事業の改善・縮小が必要となった施設については、問題を先送りにせずしっかり取り組んでもらいたい。 ➤ 個別施設の計画で特定の分野を対象とした統廃合を目指しても、10%の床面積縮減目標はなかなか進まない。関連部署や民間と共有できる合意形成手法として、本評価ツールは重要な役割を果たせると考える。 ➤ 子供や高齢者の居場所作りも大切であり、公共施設に求められる役割は大きい。 ➤ 学校施設は今後空いている部屋をどう有効活用していくかという議論になる。地域のニーズに合った活用をしてもらいたい。施設の有効活用により児童と地域の交流が生まれ、成長に繋がることを期待する。 ➤ 人口動態を正確に予測するのは難しい。方向性が確定するまでは、学校施設をすぐに廃止するのではなく、違う用途で利用する等して、柔軟に対応すべき。 ➤ <u>第三者の視点も取り入れる事が大切。</u>委員会や市民参加の場を作る等合意形成の仕組みを作るべき。 ➤ 省エネを考える上で機器の導入ばかりクローズアップされているが、実は賢く使うという視点の方が重要。 ➤ 全ての施設が収益性を前提として建てられた訳ではない。また、施設を訪れた際、周辺での飲食等の波及効果も実際には発生する。